明治廿五年十月十九日印刷
明治廿五年十月十九日出版

(非賣品)

婦人衛生會雜誌

第參拾五號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生會雜誌
第參拾五號
目次

講演
◎血の話　醫學博士　三宅秀君
◎浴場行日誌　醫學博士　佐々木政吉君
◎救急處置法
一毒創
一脱臼
一燒傷
一凍冱
衛生叢談
◎氣で氣を病む
◎地方赤痢
◉本會錄事
◉會告

◎本會規則摘要

◎本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開き随て社會全般の幸福を增進するにあり

◎本會は毎月一回第一土曜日集會を開き諸大家を聘し講義演説を囑し會員は勿論同親族知己の傍聽を許し且之を筆記して毎月會員に頒つ

◎本會會員を分ち終身特別通常學生男子賛成員とす

◎終身會員は入會の節金拾圓以上を收むる者特別會員は毎月貳拾錢以上通常會員は同拾錢學生其他事故ある者は會費五錢とし男子賛成員は毎月拾錢を納むる者とす

◎入會せんとする者は何人を論せす族籍住所姓名を記し下谷練塀町四十三番地本會事務所へ御申込あるべし

下谷區練塀町四十三番地
大日本婦人衛生會

婦人衛生會雜誌第參拾五號　明治廿五年十月十九日發兌

講演

◎血の話（九月廿五日本會總會に於て）

醫學博士　三宅秀君演說

私は今日の演題に「血の話し」と云ふ題を擇みました。血の話しと云ふ題を今日の御話柄に擇ました所以は、支那の古い書物に婦人は血を以て主と爲すと云ふ事が御座います。御婦人方に取ッては殊更に血と云ふ物は大切であると云ふ事が支那の書物に記して御座いました。尤も血と云ふものは男女に拘はらす人間の身躰に大切であつて、此血に因て人間は生命を保つて居りますので、片時も缺く可からざるものであると云ふ事は皆様も疾くに御承知で御座いましやうから、強ち古い說を持ち出して申し上げる程の事でもありませんが、婦人に於きましては殊更血が大切であると云ふ支那の說は、數千年來人々の頭に浸み込んで居ります、夫故に血の爲に種々の病氣も起るなど丶云ふ事が俗說にも擴まつて居りまするから、尙委しく此血と云ふことに就て御話しをして置きまするのが衛生上大切であろうと思ひました故、今日は血の話と云ふ題を撰みましたので御座います。又近頃人畜の血を用ゐまして傳染病を豫防し、或は已に發し居りまする病に血を藥の如くに用ゐて治すやうになり、益々血の大切なることも解りました此衛生上殊に大切の事で御座いますから、先づ最初に血とは何う云ふものであつて何う云ふ作用を爲すものであるかと云ふことを說き順を追ふて申上けます。

身躰を循環ます血は大切であると云ふことは、支那で申して居りまするには血を榮となすと云ふ、榮は水穀の精にして目の見ゆるのも耳の聞へるのも手の

握のも皆水穀の精で、水穀の精とは食物の中の最も役に立ちまする部分で、目の見ゑるのも耳の聞へるのも水穀の生粋で、五體が働いて往くのであると云ふことを數千年前に支那で申して居ります、然るに今日漸く歐羅巴の學問が進んで參へつて生理學上の事なども追々明になッて參りましたので、古し支那で漫然と申して置きました其解し難きことが、生理學の力に因て眞の道理が解ッて來ると云ふ丈けが近頃の新しい生理學の効用であります。如何にして血と云ふものは目に物を見せ、耳に音を聞へしめ手に握らしむると云ふ道理が生理學で解ッて來たのかと云ふ其事を今日御話しを致しまするのですが、其れは既に支那に於て數千年前に云ふて置いたことであります、夫れから血の性質を申します、血の性質は支那の古書に中焦氣を受けて變化して赤しと申してあります、中焦は臓腑の名此節解剖學が開けて參りまして、中焦と云ふ臓腑はドコにあるかと云ふことを穿鑿して見るに、ドコにあるか確かに解りませぬ併し一説には中焦と云ふ臓腑は今日解剖學で乳糜嚢と申す、乳糜の這入ッて居る嚢が即ち中焦と云ふ臓腑であると云ふ、一ッの説が有ります、併しながら中焦と云ふ臓腑が氣を受けて……氣と申しても空氣の氣とは違ひませうが、一種の氣を受けて赤くなると云ふ是れは支那の説が誤ッて居ると思はれます、抑々乳糜と云ふものは空氣に觸れて直ぐ赤くなると云ふ譯では有りませぬ、然して今日の解剖學生理學で申します乳糜は水穀の精で我々の飲食致しまする生粋の宜い處の部分が乳糜と云ふものになりまして、乳糜嚢と云ふ袋に這入ッて居ります、併し乳糜と云ふは乳と云ふ文字の如く、乳の様な色を致して居るもので、稀には赤い様な色を帶ぶる事も有りますが、肉眼で見ては淡紅色程にも見ゑませぬ、ツ

し故此白色の物が大氣に當りまして變化して赤くなる之を血となすと云ふやうに、容易に赤くなッて參る譯では有りませぬ、血は御承知の通り赤色であります、併し其赤いのは何が赤い色をして居るのかと云ふに、是れは顯微鏡の力を借りませんければ解りませぬが、顯微鏡で血を見ますると赤血球と云ふ圓い赤い球がある、尤も顯微鏡で見るときは赤色ではなく恰んど黄金色とも申す程の黄色を現はして居ります、其黄色の者が澤山集ッて我々の肉眼に見ゆる通りの赤血になつて居ります、今一ッは白血球と申します、白い血の球是れも顯微鏡の力を借りなければ見ゑませんが、極く細く小さい球が血の中に御座います、此白球は乳糜の中に多くして赤血球の方は極めて稀れで御座います、夫れ故乳糜は白く尋常一般の血と云ふものは赤くなッて居ります、シテ見ますると乳糜と申す水穀の中の生粋の部分が漸々に變じて赤くなるのは、氣を受けて直樣赤くなると云ふ樣な容易きことではない、乳糜は澤山に血の中に混りて段々に白球が赤球の方に變るので有ろうと云ふ説が從來御座いました、然るに亦此頃起りました一説には赤球の方が先きに出來て、段々に變じて白球になるのである、赤血球の色が褪めて白い球になるのであると云ふ説が出ました、併し是等の六ッケ敷議論は皆樣に申上げる必要もないことで、當時の學者間の問題で白い方の球が先に乳糜の方で出來て、夫れから赤球になると云ふのが一寸と考へても解り易い説で御座いますが、今一ッの説は其裏から申しまして赤球が崩れて白球になると云ふ説が起ッて參りましたから、事の序に御吹聽をして置くのみのことで御座います。

ソコで何う云ふものが赤い球、何う云ふ者が白い球となると云ふことを申しましたが、血と申す者は唯

赤球と白球とのみで流通して居るのでは、御座いませぬ、必ず水の様な流動躰に混り流通して居るソレを血漿（血漿とは血液の中の無色の澄水を云ふ）と申します、血と云ふものは其澄水と紅白血球とは全く當半とは申されないが、顕微鏡で球の形に見へますものと水とは凡そ半々と御考へ下されば大いな間違は御座いませぬ。

從來の生理の事に就て一寸申して置きますが、是迄の血液の中の大切なる部分は何であるかと云ふに、第一に赤血球が最も大切のものだと考へて居ます、其次が白血球其次が血漿である、斯う云ふ工合に水は形が無いものでありますから一番やすく見なされて居りました、然るに追々に衛生學生理學等の研究が積んで參りましたので、或人は白血球に大層の價値を附けまして、「白血球は非常に貴いものである」と申しましたが、又近頃になりまして血の中の澄水を用ゐて傳染病を豫防する様になりまして、澄水の中にも効能の有る事が現はれて參りました、ソレ故最早近頃になりましては衛生學の方では最初一番價値わりと申して居りました赤血球は一番價値の少ないものになつて、參りました學問は次第に進歩まして研究が積むに從て從來價値の乏しいと思ひしものも非常に貴くなり價値の有りしものも、却て無くなる様になりますもので、最も價値の有るものと思つた赤血球よりも價値の少ないものとして有りました血漿の中に、大なる効能が有ると云ふ事を發見致されました。

又元に戻りまして支那の説に「血は脾臓に成り、心臓に統べ、肝臓に藏め、肺臓に布き、腎臓に泄し、一身に漑ぐ」即ち血と云ふものは脾で出來てソレから心臓の中に聚ッて往き、肝臓の中に藏める、ソレから肺の中に普く撒き散し、腎の臓で泄らし一身に漑

ぐ。斯樣に血は五臟及身體中を環るもので有ると申して有ります、殆んど此說は今日の生理學者から見ましても間違ッて居らぬと云ふて宜しい、從來の生理學で血の出來る處、血の中の一番大切の部分赤血球の出來る處は、脾臟の中で出來ると申し來りましたが、近頃は又赤血球は骨髓の中で出來るものであると云ふ事を西洋でも申して居ります、ソレから血が心臟に聚まる一身の血はドコの血でも心臟を環らない事は無いと云ふ事は能く今日の生理學上にも適ッて居ります、肝臟に藏めると云ふ事を申しますが、此肝臟に藏めると云ふは冬期穀物を取りまして藏に入るゝ如く血を肝臟に收める、肝臟は古い血を壞す處となッて居りますから、則ち肝臟の藏に收めると支那人が考へたのかも知れませぬ、ソレから肺臟に布く是は至極善い說で御座います、肺臟と云ふ處は細かに血を撒き散す處で御座いまして至極今日の生理上にも能く適ッて居る、肺臟に撒しまするので初て呼吸が出來るので御座います、腎の臟に泄らすと云ふも其當を得て居る、腎臟に於きまして不用の部分を泄し出して仕舞ひます、則はち水になッて出ます、其他全身を其血が循環まして種々なる作用をなすと云ふ事を申して有りますが是は爭はれない事で、若し血の循環が片時でも止ましたならば、同時に他の作用も止ッて仕舞う、其例を引いて御話を致せば、縊首或は咽喉突の如き自殺を致しまする時分に首を縊り或は咽喉を突きます是れは首を縊りて息の根を止るのか、又は喉を突いた爲めに息が洩れると云ふよりは寧ろ大切なる頭腦に血が通ふて居りまするのを、途中で縊る爲めに血液の通ひが止と申した方が適當で御座います。何故なれば縱令自殺を致し美事に氣管を切ッて居りましても生きて居りますが、咽喉の左右に御座います太い脈管を切ります

と、心臓から脳に往く血が洩れて出て仕舞ひますから死ぬので、決して自殺をする時に氣管を切ッて息が止まると云ふのでは御座いません。故に血液の環りが一寸でも止まると死のであると申す方が至極善いだらうと思ひます、是れまでが血のからだ中に分配致して夫々の作用をなすと云ふ御話しで御座います。

ソレから血は水穀の中の精であると云ふ事を前に申して置きましたが、血を製造するには水穀の精何でも滋養分を多量に食べませねば製造することは出來ません、ソレ故衛生家が皆様に向ッて滋養物を召上がれと御勸め申すので御座います、併し何程滋養物を召上ッても、腸胃で消化する力が不充分で御座いましては、矢張り血を製造する事が出來ませぬから、腸胃の消化が大切で御座います、成るべく消化の善い柔らかきものを召上がれと云ふので有る、斯樣にして腸胃の消化も能く滋養物も程能く食べて居りまするど絶へず極く上等の血が出來まする。上等の善い血がからだの中を普く循環ッて居りますれば、誠に肉體も健康かで居ると云ふは最早述ぶる迄もなき事で御座います、其中に漸々惡くなりました血は心臓から肺臓に送ッて清潔にする、是等の事は少しく生理の書を讀みましたものは疾くに御承知の事でも御座いますし、當今は小學校ですらも敎へますから此邊は省いて申上げませぬ。

私は今迄申し述べましたる血と云ふものを世間に融通致して居りまする貨幣に譬へたならば極めて面白いで有らうと思ふて居ります、赤血球は赤いと申しても顯微鏡で見まするど殆んど黄金色をして居ります、故に是も古へより貯んで居りますから金貨幣に擬し、又白血球は白色で御座いますから銀、銀貨にでも喩へて見たら宜しからう、ソレから血漿是

れは貨幣に例へたくも水の貨幣も無いから貨幣に喩へ様も御座いませんが、小い錢銅貨にでも喩へたならば宜しからうと思ひます。何故かなれば白血球赤血球のみでは余り濃過ぎてからだ中に環らない、ソコデ血漿に依て之を適宜に稀釋め初めてからだ中に限なく環る様になるので御座います、乃ち金貨銀貨は余り貴くて迚も貧窮人の手には這入ませぬから、銅貨と云ふものを拵へて之を稀くして貧窮人の手に入れる事が出來る、ソレ故血漿は銅貨、白血球は銀貨、金赤球は金貨として金銀銅の貨幣が釣合がよく身躰中を環る、全く金滿家の手にのみ止まつて居りませずに貧窮人にも能く行渡ッて居りまする如く、からだ中にどこにでも滯りなく血液が融通して居るのが身體の最も健康の時の有様で御座います、故に私は之を金銀の融通に喩へて血液經濟と申します、常に血の繰り廻しが能く附いて居らなければなりませぬ。

然るに此繰り廻しが御婦人方に於ては毎月狂ます、所謂例の月經が御座いまして月に一度は必ず狂ひます。殊に御妊娠中抔は大狂ひに經濟に狂ひを生じて參ります、御承知の通り十月間も滯ると云ふ譯になりまする、成程支那で「婦人は血を以て主と爲す」と云ふたのは決して虚言でない、男女とも血と云ふもの丶必要なる事は勿論の事でありますが、婦人は妊娠中は十ヶ月も滯り其後といへども小兒に乳を與ふる間は始終狂を來しますから、「婦人は血を以て主と爲す」と申したので決して支那人が偶然な事を申したのでない、確かに據り處の有ッて申した事と考へられます。

ソコで經濟上融通の惡しくなりました時に、御婦人方は血の融通が惡くなつた時の用意が豫ねて致して御座います、男の身體には融通の惡くなる事は御座

いませんが、併し融通の惡くなつた時には身代限を仕なければならぬやふになります、然し御婦人方は融通の惡くなる事も豫め極ッて處置の附く樣になつて居ります、男と女と比較して見ますると血を失ひし時即ち何か損耗をして所有金を失ひし時に當ッては、男子は非常に衰弱りますが、婦人は左程弱りませぬ、又損耗をしても元の通りに補ふ事も婦人には容易く出來る樣なッて居ります、併し婦人は何程損耗をしても回復しが附くと云ふ御考へが起りましては私甚だ迷惑致します、何故になれば長血或は婦人方に多くある走り痔杯を煩た人は、色沓褪めて動悸が致し息切れが致します。サウ云ふことは皆樣も御承知て御座いませうが、息切れ立ち眩みなどの致しまするのは、恰も所有人これを失ッて經濟が取りきれず、所謂身上の左り前になッた時の有樣て御座います、御婦人方の病は多く血の道……私は

未だ血の道と云ふ字の起りに就ては不穿鑿で御座いますが、或は血の滿と「みつると」云ふ當字を書いて有りますが是は血が滿ちた爲めに起るのてなくして却て血を失ッた時に起る、概してサウとは申しませぬが、先づ大概の世の中の血の道は財產を失ひし時の徵が御座います。財寶の空らになつた時の病氣を血の滿と書いては、ドウも意味が通じません、先づ世間て申す血の道は血を失ッた時の徵と御承知下すつた方か安心で有らうと存じます。

さて血の道と云ふ病氣は種々の症を起して眩暉し、氣か鬱ぐ是も血か少くなりまして其爲めに神經の作用か不充分になつて參りまして活潑に働く事か出來ない、總べて何ても血の道の方に引寄せて仕舞ひます、眼が霞む是たは血眼てあらふと云ふ樣に血と云ふ事を申すのは、最初に申した婦人は血を以て主となすと云ふ支那の說から起つた事に違ひない、總べ

て婦人のからだに起ッて來る病氣は血液か乏しくなつたから起ると考へれば間違ひはない、隨分俗間には病症に血が手傳ッて居る抔と云ふぼんやりした言葉を用ゐて居るが、併し此事に就ては未だ確かな解釋を下す事は私には出來ませぬ。

古にしへより人の血にもせよ其他の動物の血にもせよ、血と云ふものは淸いものであるとも考へて居りますが、又穢ないものであるとも考へて居ります、世の中の開化致しまするのと共に、人畜の血を以て淸ひものと考へて又穢ないものとも考へて居ます。其證據は何か誓文を致しまする時神掛けて誓ひを立てまする時分に、大切の證文の上に血を灌ぎなどしまする、歐羅巴抔に於ましても獸類を犧牲に致し、其犧牲の血を絞ッてからだに塗り、或は其絞ッた血を飲むと病氣が癒る抔と二千年以前は申して居りました、支那でも鐘の出來上りました時に之を塗りすると申して器物に血を塗ることがある、又兄弟の義を結ふ時に互に血を啜ると云ふ樣に神に祈り、謹んで致す事には毎も生血を出して居ります、是等の事を以て見ましても生物の血は穢ないものでない樣になつて居ります、然るに血と云ふものは大不潔のもので在ると云ふ考へも起りまして、何でも血と云ふものは大不潔のもので有ッて神佛の前に血の汚れが有つては恐れ多いのみならず公けの用向きも血の穢れの有ものは、觸ッてはならぬと云ふやうに申して居ります、例之ば夫が役所で公務を執りますにも家内が產を致しますると、產穢或は血穢と申して公けの業務を取る事を忌むやうに同一家の中に血の汚れが有りますると業を休むと云ふ位ゐでございますから其時分は血と云ふものは、汚れたものと見たに違ひない、又支那の書物で見まするど最も人の不潔と致して居りまする、婦人の月水を以て藥に用ゐた例

抔も御座います、支那人は實に奇妙な事を致します色々なる不潔物を以て藥に用ゐたものが幾らも有ります、是れは支那でも決して余計用ゐた譯でも御座いません、矢張り支那でも血は不潔物と致して血の汚れの有る者は、藥を調合してはならぬと云ふ事を申して居りますから此方が何れ正しいのであらうと思ひます、我國で古へ宮中に御藥と云ふ女官が御座いました、其女官が御上に上げまする御藥を貯へて居ッた、此御藥を調合して上げて居ッても其頃若し血液を不潔物と致しましたならば躰に汚のある時だけは謹んで御藥を扱はなかッたで有ろうと思ひますが、月經の時には御藥に手を附けなかッたと云ふ事を書いたものはまだ見ませんが、或は左樣な事の必ず有ッたらうと推察されます。其外俗間でも知ッて居りまする事で、婦人月經の穢れ有るものは酒を醸造しまする酒室、或は麹室に這入る事が出來ない事として居ります、近頃の亞米利加の醫事新聞に載せて有りましたる、月經の有る看護婦は大手術の室に立ち入らしめずと出て居ります、月經のある婦人は手術抔を致しまする室に立ち入ッてはならんと云ふ事は、既に一二年前或外科醫が申して置ましたが、此頃になッてからだが穢れて居るものは手術などの場所に立入ッてならぬと云ふは、成程尤もなる説であると申しておりました、段々生理學衛生學などの進歩するに從ッて古より支那あたりで申しました事、或は我國俗間に傳へて居りまする事も、學理に照して役に立つやうになります、決して支那人がボンヤリした事を申したのではない申すだけの理由が御座いましたのを近頃術は一層委しく明かになッたので御座います、然らば月經の爲に穢れたものが手術の時に立入ッて惡いと申す譯はドウ云ふ譯であると云ふに、一躰月經と云ふものは大不潔のものであ

ッて始終其部を清潔にして居ることはドウしても出來ない、ソコに「バクテリヤ」が這入ッて生育して居る故に、外科醫者病婦其身躰を淨めて後手術にかゝるべき所に其の「バクテリヤ」の附いて居る者が近寄りましてはソレが爲めに大切の手術を誤る事があるから、立入ッてならぬと云ふ事が近頃になッて確かに解るやうになッて參りました、既に衛生の方で清潔法の事を非常に大切に致して今日の如くに實際に行はねばならぬ場合には、是れは忌まねばならぬと云ふことは確かなる證據であります。

古い所の考へにすると、からだの中に惡血の塊り或は滯りと云ふことを俗間で申します、支那でも惡血と云ふことを頻りに申します、成程今日の生理學病理學に據ッて見ましても惡る血と云ふことはありますが、ソレは傳染病の毒其外の毒物が血の中に交ッて居れば如何にもソレは惡る血で御座いますが、其外に決して惡血と云ふものはからだの中に無いやうに仕掛けてあります、少しでも惡いものが血の中に交ッて居りますれば、ソレは外に取除けて仕舞うやうな仕掛けになッて居る、併し前申す如く傳染病の毒が全身に行き渡ッて居りますれば、惡血で御座いますから愈々傳染病の毒か血の中にあると云ふ事が知れましたならば、速に身躰の外に逐ひ出して仕舞はねばならぬ、何故私が惡血に就いて殊更に御話をするかと云ふに、從來の考へで惡血が滯ッて居ると云ふて、頻に血を取ます例之ば長血の婦人は早く止めると宜しくない、惡る血であるから出る丈は出した方がよいと信じて居る者が大變に危いことで御座います、又其外醫者によッて惡る血があるからと頻りに血を取ッて居る人がある、先日も或治療家に聞きました所が、大切の人間の血を惡血だと申して妄りに取りましたので、其病人はヘト〳〵に衰

ツて幸にして生命を隕さないと云ふばかりになつて仕舞ひました、實に斯の如く惡血なりとして之を取り除けて仕舞うと云ふは誠に危險なる譯で御座います、醫者が斯くの如き事を致しまするのも實に申し譯のない話しで御座いますが、又此事を信ずる素人方も平生惡血など丶云ふことのみを耳に挾んで深い考へもないのは、詰り衛生會の講演などを御聽きにならぬからさういふことも起るのであらうとをもふ、惡る血〱と云ふ事を信じて居りまするると大切の失ふべからざる血液を無くして仕舞ひまして余程危いことで御座います。

ソレから人畜の血を以て傳染病を防ぐと云ふ新らしい說の方に移ツて申上げます、衛生學者の硏究にいたしますると、人畜の血は傳染病を防ぐ力がある、然らば其血を取りまして藥にして飲ませるのかと云ふに、決してさうでない血の中に存在致しまする一部分を取りまして、即ち血漿と云ふ水を取まして、聊かばかり人間のからだに移しまするると云ふとソレが大層の作用を以て傳染病を豫防することが出來ます、則ち牛のからだから皆樣も御承知の痘苗と云ふて、小牛に出來た痘瘡の中の奇麗なる水を取ッて種へます、之を膿を種へると思召すと大違ひで御座います、或は少し位ゐ血が混ることも御座いますがアレは膿血ではない、小牛の腫物の中の水の部分だけを取ッて聊かばかり人間のからだに種しますと、此五尺の身躰が天然痘に罹るのを防ぐことが出來るのであります、牛痘をして居る牛の身躰の血漿が余程に豫防力を有ッて居る、又或人は血の中の白血球が傳染病を豫防する力を持ッて居る、是は傳染病の毒が「バクテリヤ」であるとすると、其「バチルレン」が我々のからだに這入ると白血球が待ち構へて喰つて仕舞うと說き明した人も御座います、鬼に角

赤き球は傳染病を防ぐに就いて別段に其効はなくして、白血球或は血漿と云ふ流動躰に効能があると云ふことを申して居ります、又血漿で傳染病を豫防することが出來るなれば、既に其傳染病に罹りし病人が血を以て癒すことが出來るかと云ふに、現に近頃では癒すことが出來ると云ふ說が起ツて居る或人は犬の血の中から血漿を取りまして傳染病に罹ッた人に注げばどうであるか、或は羊の血を取ツて注込めば癒ると云ふ例を頻りに研究して居る尤も是等に用ゐまする血漿の分量は種痘を致す如く一寸と針の先で突くばかりでなく、余計に注き込まなければならぬ、此樣に段々衛生學の研究が積んで參るに從つて最初は無効のものと申して居ッた血漿が、極めて有用のものになッて、少し計りの物で人一人の生命を救ふばかりでなく所謂一粒万倍と申して、多人數の生命を救ふことの出來るやうになりた、ソレ故是迄も成績の確かなる種痘などに就ては、兎角く其種痘を受けて、其種を又他人に移し、種へさせなければなりませぬ、また確かに解からぬ中は御勸め申すことも出來ませぬが、種痘の如きは、今日は既に誰も爭はぬことで、一ッの痘苗から數百人の生命を救ふことの出來る價値が、此血漿にあると云ふ事が解ッて參りましたのであります。

是まで述べましたことを摘みて申すと、人が健康であらうと思ひますには、先づ以て滋養の食物を取り、血液の缺乏せぬやうに致し、又運動をよくし、血液の循環をよくし、血液經濟と云ふことに注意をして、血が惡るくならぬやうに、毒のないやうなものを食べ傳染病の感染致さぬやうに致し、種痘の如き、確かな法は進んで之を行ひ、又人にも勸め追々衛生學の方で發明も積みて參りましたから、新らしき確實なる良法が出來ましたならば必ず之を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

試みて、啻に自分一人の健康を保存するばかりでなく、他人の健康をも保存するやうに致すのは、衛生會の業にれ至極適當のことゝ思ふて、血漿療治の事をもザット申したのであります。

今日は先づソレだけの事を申上げて皆樣の御聽に入れました次第であります。（完）

◎浴場行日誌　（前號の續）

醫學博士　佐々木政吉君

一二月の候には間々暴風波瀾の甚しきことあるを以て、冬季に至れば浴場に備ふるものにして、容易に波のために奪はれ又は破らるゝの虞れあるものは之を除く、波濤は中等の勢ひにして適宜に刺戟を與ふるに宜し、水色は藍にして且美なり、水底極めて清く白砂細美銀色を呈す淺深序を追ふて敢へて嶮峻なし。

浴場を三所に設く皆海中にあり、中央を男室とし兩翼を女室とす、各間の距離三四町を隔つ室の結搆は蜂巣狀なり、室内には鏡椅子衣服及び帽子掛け等の設けありて中に浴衣を着するを得る裝置あり、一人一室を有す余が見たるものは中央なる男子浴場にして室の數八十五あり、場内には朝六時正午夕六時三回の掲示を以て當日の水温、氣温及風の方向を報ず此室を使用するの價左の如し。

十二枚の浴場使用切符六麻（麻は獨貨のマルク）

一回の料　六十布（布は獨貨の「ペンニヒ」一麻は百ペンニヒ）

游衣借料一回　十布（一麻は凡我三十三錢にして一布は三厘三毛に當る）

余此浴場用室の結搆を見んと欲するや切なり、如何せん當時季節に非ざるを以て閉鎖し此に登るの梯子を撤去し人の昇るを許さず、幸なる哉ヘルマン氏特に余が爲に書を浴場長に贈り其許可を受け之を觀ることを得たりき。

海水鹽分の量は百分一以上を含む、五ヶ年内の平均に因るに六月廿六日より九月廿日迄の空氣溫は列氏一三、九にして水溫は一四、五度なりと、水波の激動は九十一日に對する五十一日なりと、空氣の濕度は百分七にして要するに濕潤の度高きものに屬す。
浴客の溺るゝを防ぐために限界の浮標を立て、其他網を張りて深所に至るも之を握りて行くときは溺れざるの設あり、男子浴場と右翼女子浴場との略ぼ中央に一の橋を設く、伯林青魚村株式會社の建つる所にして「カイゼル、ウキルヘルム」橋と命名す蓋し皇帝の允可を得て斯く稱するなり、此橋海中に突出すること四百二十五「メートル」にして其末端に至れば水深「四メートル」に及ぶ、此結構の目的は二あり一は浴客をして舟に依らずして海氣を呼吸せしむるの便と、散歩又は眺望を得せしめ、二は滊船の棧橋となりて端船を用ふるの勞を省んが爲なり、此建築費十五万「マルク」なり此橋の前に大なる波除あり是れ此橋を保つが爲なりと次に陸地の形勢を記せん。
海濱に沿ふて長き散歩の道あり別墅の建築頗る多し「クールハウス」には海水を引きて溫浴せしめ、又は泥炭浴をなすを得るの裝置を準備せり。
海濱より歩すること數武直に深林幽谷に遊ぶの想あり、景色の變一瞬に成る滿岡縱横に散歩の道を附し所々に椅子を設け夏時涼清愉快の空氣を送る、全岡松又山毛欅を生じ影地に富み納涼に便なり、岡間古昔海賊の潜伏したる所をロイベルクール(賊窟)と稱す、下る少許小溪水あり兩岡相對し景色佳なり人呼んで「イタリヤ」と稱す其風景に富めるを以てなるべし、此高岡低地或は登り或は降り高に登て長嘯し、低を瞰て吟詠し仰て絶景を見伏して草木の繁青を撫し其酸素に富める空氣を呼吸し、淸風一陣熱を洗ひ

一碗の珈琲を飲むを得る是れ青魚村浴場の獨り恣にする所にして他浴場の及ばざる所なりと、故に青魚村は實に海浴療法と氣候療法とを兼有すと云ふべし。

(以下次號)

◎急救處置法

毒　創

毒創とは狂犬毒蛇又は毒矢毒創に觸れて受けたる害にして、此危險なることは、毒物創口より入り淋巴管と云へる管に吸收せられ、直に心臟中に送くられ体中全部の血液中に循環するが故なり、此の時に當りては、速に彈力ある紐或は手巾の如きものを以て、其創の上部を緊しく縛りて全身へ血の循環することを止め、而後始めて創口より其毒を除き去ることを勉むべし、其法は即ち我が口を以て創口を吸ふか、或は火にて燒くか又は石炭酸、硝酸、苛性加里を以て創口を燒き其毒を去り、此手當をなし直ちに醫者を招くべし、又狂犬の疑あるものに嚙まれたる時は、先づ其犬を捕へ之を檢査すべし。

脫　臼

脫臼は外力即ち高き所より顚げ落ち、或は相撲等によりて關節の運動する能はざる方向に逆に動かしたる時に生ずるものにて、俗に腕が拔けるなど稱するものは即ち之れなり、此時に當りては、醫に委ねて及ぶべく丈速に復位せしめざるべからず、併し俗人は決して自から手を下すことなかれ、唯速に醫者を呼び來るか醫家に送致することに勉むへし。

燒　傷

世人が小兒をして不注意に擦附木をもつて玩弄にさせることより屢々不幸を來すことあるは新聞上に見ゆ、又た母親保姆等の沸騰りたる熱き牛乳或はソップなどを小兒の傍に置き、之れが爲め燒傷をなした

りと云ふことも聞く處なるが、一般に概して言ふ時は、婦人は此等の點に就ては男子よりも遙か不注意なるが如し、ソは其衣服身体を燒傷する者甚だ多きを見ても知るべきなり、若し洋燈等を取り扱ふことの不注意より其火焰忽ち衣服全体に移りたる時は、直ちに地上に臥して頻りにゴロ〳〵回顛し以て火焰を壓し消すことを最も良き方法とす、なれども通常の人は此の如き氣力を有せざる故に、唯に泣き叫び奔るのみなれば、却て風の爲に火焰の力を盛ならしめ、不幸者は恰も火柱の歩行するが如き有樣をなし、遂に燒け倒るゝ慘酷に遭ふを常とす。

此の如く實際に遭遇たるときは、不幸者を扶け倒し頻りに回轉して其火焰をもみ消すべし。然る後多量の水を持ち來り全躰に灑ぎ十分に濕す可し。

熱湯又は蒸氣などの爲め湯創をなしたるときにも、亦澤山の冷水を注ぎ身躰と衣服とを十分に冷やすを緊要とす。

其後不幸者を温かき室に導き席上に毛布を敷きて靜かに臥さしめ、或は机上臺上に臥さしむべし、常の寢床に臥さしむる時は、運搬するに不便なるを以てなり、夫れより直ちに醫家に送致すべし。

凍冱

凍冱は劇しき寒氣に觸れてのみ發するのみならず、旅行の長程餓に迫り漸々疲勞するためか、或は酒の爲めに醉ひ倒れ寒風に侵されて体温と知覺を失ふにあり、されども大雪の爲に埋没したる人は最も蘇生せしめ易きものなり、ソは雪は動物の温氣を奪ひて他に導くこと少きものなればなり。

凡て凍冱の爲に害されたるものを蘇生せしめんと欲せば、最も注意せざるべからず。

其人を移して温かき室に入るゝときは必らず死するものとす、故に四面を開け放ちたる冷やかなる室に

入れ注意を加へ衣服を換へるべし、其傍に雪あれば之を取りて皮膚を摩るべし、雪なきときは濕りたる布又は冷かなる砂等を以て之に代へるもよしとす。總べて此等の處置を行ふには、人工呼吸を施さゞるべからず（人工呼吸法の事は後に說くべし）此處置にて呼吸する樣になり手足も自由になれば始めて微し溫かなる室に移し、冷かなる蒲團又は毛布を以て蔽ひ溫き布を以て摩り漸次室に溫度を加ふべし、然る後弱き冷き酒、冷茶、冷珈琲、冷ソップ等を飲ましめ精神を囘復せしむべし。

衛生叢談

◎氣で氣を病む

酒にえいたる人ありて門のあたりにたゝずみけるが咽のつよくかはきける故に戸をたゝきて茶をもとむれども夜ふけ人しづまりぬ、せんかたなきまゝに石桶の中について水を掬して飽まで飲けらし翌日其桶の中を見れば水中に紅蛆みち〳〵たりさては此紅蛆をのみけるにやと思より心わろくして歳月を重ねて大病となり醫者よ祈禱よ百計すれども癒へざりけり後に明醫にあいけるが此病因を聞て疑病あることを知てければさらば藥をあたへんとて紅糸を剪て蠟にねり合せ丸藥となし夜に入りくらき處にしてあたへけらし、しばらくありて腹中大に雷鳴し瀉下する甚し其瀉下の物を器にうけて明曉に之を見れば穢物の内に紅糸のころがりける恰も紅蛆にたがふ事なし病人はじめて喜びさけび病根こと〳〵く去ぬと思ふそれより病氣たちまちに平復しけるとなん此たぐひ多かり。

◎各地方赤痢

本年は兎角季候不順なりしも一般に虎列剌病の發生

せざりしは、之れ全く豫防周匝の致す處か、誠に賀すべきことながら、之に引き換へ赤痢の流行は日を追ふて増加せり、今九月中各地方赤痢患者數を擧ぐれば左の如し。

◎兵庫縣　は九月十九日より仝廿五日に至るまで、新患者三百十八人、全治三百〇七人、死亡六十六人初めて、發生せし以來今日迄患者一千八百三十一人、死亡三百八十八人なりといふ。

◎高知縣　九月廿四日より仝三十日に至る、患者百九十七人死亡二十五人、初めて發生してより千四百〇二人、全治六百二十一人、死亡二百六十三人、未治五百十八人なりといふ。

◎鳥取縣　九月七日より仝三十日に至る患者九十二人、死亡十八人、全治四十六人、初めて發生せしより五百四十一人、死亡百十五人、全治二百十二人なりといふ。

◎福岡縣　九月十七日より仝二十三日に至る新患者五百〇五人、初めて發生してより八千六百三人なりしといふ。

◎和歌山縣　九月十八日より仝廿四日に至る患者百五十五人死亡三人なりといふ

◎熊本縣　九月十日より仝十二日に至る患者四百九十二人死亡九十六人、初めて發生せし以來六千五百〇四人死亡一千〇五十七人、全治四千三百〇三人なりしといふ。

◎大坂府　九月十九日より仝廿五日に至る新患者二百七十七人、死亡七十七人、初めて發生せし以來一千六百二十六人にして、死亡二百十九人なりしといふ。

◎大分縣　初めて發生せし以來患者六千九百十七人、死亡一千五百四十三人にして全治四千二百二十三人なりしといふ。

◎宮崎縣　九月廿七日廿八日兩日間患者四十人、死亡五人初めて發生せし以來合計二千百九十七人死亡二百八十三人にして全治一千二百七十七人なりしといふ

◎佐賀縣　三十日患者八人、死亡五人初めて發生せし以來合計二千〇十四人死亡三百七十一人にして、全治千二百三十九人なりしといふ。

◎愛知縣　九月九日より仝廿一日に至る患者三百六十三人死亡七十八人、全治三十六人、初めて發生せし以來三百七十人にして、全治五百四十二人死亡二百二十五人なりしといふ。

◎石川縣　八月下旬より發生し九月二十七日までの患者合計二百三十二人死亡三十五人なりしといふ。

本會錄事

◎十月例會　十月八日第二土曜日午後例會を麹町區永田町一丁目赤坂門內華族女學校に開く定時に至り來會する者八十餘名此の日　總裁小松若宮御息所殿下には初めて御臨場被遊役員等一同奉迎し土方會長の御先導にて別室に入らせられ先つ役員等へ拜謁仰せ付けられ夫より會場へ臨ませられ優渥なる御辭を賜りたり會長御禮辭を申上げ次に講演あり醫學博士大澤謙二君には「實行を望む」と云へる題にて是迄本會に於ける諸大家の講演せられたることは何れも皆有益の者なれども之を日々に實行せざれば其効益なしとし例を引き懇ろに述べられ續いて藥學士丹波敬三君には「食塩の利用に就て」と云へる題にて其効用製法の良否及化學上の現象等を委しく述べられ席上食塩製法の實驗をなし會員をして了解し易からしめたり右終りて評議員の撰擧あり其際　總裁御息所殿下には暫時御休憩の後歸御あらせられしが一同散會せしは午後五時なりき。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

總裁小松若宮御息所殿下の御辭

こたびれの〳〵方にたされてこの會の總裁たることをうべなひ今日初めてこゝに臨みれの〳〵方と相見ることを得たるは誠によろこばしき限りなりそも人生衛生のゆるがせにすべからざるはいふまでもなきことながら婦人にありては殊に注意を要すること多く世のため國の爲その關係尤大なりさきにこの會のまうけありて婦人衛生上の智識を開發せむことを企てられたるはわらはの深く賛成するところ也この會は創立この方れの〳〵がたの盡力によりてかく整ひ備れりといへどもなほこゝにとゞまらずいよ〳〵勵み益す〳〵勤めてこの會の目的をつらぬかれんことを望む

會長の御禮辭

今回　小松若宮御息所殿下を大日本婦人衛生會の總裁に奉せんことを願ひ出でしに幸に御許諾を得たるは寔に本會の光榮とする所なり且今日は親しく本會に臨ませられ優渥なる御辭を賜り感佩の至に堪へず今後會員と共に益す〳〵相勵み盡す所あらんとす謹て御禮申上け併て　總裁御息所殿下の御健康を祈る

大日本婦人衛生會々長　土方龜子

◎本會規則第八條に依り評議員撰擧を行ひたる其結果左の如く各々其任を承諾せられたり。

評議員姓名

加藤すゞ子　南部隈子　長與その子　宮本らく子　中濱よし子　三宅ふじ子　原田とき子　大澤さく子　岡田とく子　岡田みす子

榊こう子　荻原そう子　高木とみ子　河本かめ子　濱田すて子　西ます子　平田よし子　河津とし子　山縣とも子　佐々木よし子

本年三月以降八月卅一日に至る寄送雜誌左の如し

一婦人教育會雜誌	壹册	大日本婦人教育會
一埼玉衛生會雜誌	六册	大日本私立衛生會支會埼玉衛生會
一護國之楯	六册	北海禁酒會
一衛生資鑑	壹册	聖會本塲
一產科婦人科研究會月報	貳册	產科婦人科研究會
一北海時論	壹册	北海時論社
一家庭雜誌	壹册	家庭雜誌社

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○九月、十月二ヶ月中本會へ入會せられたる會員宿所姓名左の如し

○中橋悦子の紹介により
一京橋區築地二町目　通常會員　新山菊子

○幹事中野えつ子の紹介により
一青森縣青森市浦町百四十番地　通常會員　三浦さだ子
一芝區西久保葺手町三番地　仝　木場小ゆり子
一芝區西久保葺手町二十二番地　仝　町田榮子
一同區同町十七番地　仝　谷山てつ子
一麴町區永田町一丁目十七番地　仝　伊東八重子
一牛込區市ヶ谷仲町二十八番地　仝　猪狩ます子
一麻布區本村町六十七番地　仝　曾山のぶ子
一麻布區円鴎町四十七番地　仝　杉本ひで子
一本郷區駒込西片町十番地二ノ六號　仝　田中てる子
一麴町區下二番町四十五番地　仝　植村たつ子

○幹事加藤つね子の紹介により
一福岡縣筑前國鞍手郡勝野炭坑　特別會員　安達芳子
通常會員　竹村たつ子
麴町區五番町十四番地　通常會員　西川ケイテイ夫人
京橋區出雲町七番地　特別會員　田野埼子

○會員祭ふみ子の紹介により
一本郷第一醫院　仝　山口なつ子

○會員馬場ぬい子の紹介により
一下谷第二醫院　仝　田口つる子
一仝　第二醫院　仝　大竹ひさ子

○十月例會の節會場に於て入會
一駒場農林學校官舍　通常會員　ミッセス、グラスマン

○幹事北澤のぶ子の紹介により
一本郷田町二十八番地　通常會員　加藤秀子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎動植物性營養品試驗成績

東京衛生試驗所技手平野猪之助君の施行せし動植物性營養品の分拆成績は左の如し但し魚類は鱗腸骨頭を除き肉のみを試驗したるものなりと云ふ(官報)

第一　動物性營養品　百分中の成分を示す

品名		水分	蛋白質	脂肪	灰分
アコウ		八一、五一五	一七、一三五	〇、三七五	〇、九七五
帶魚		七一、七六五	一九、八四一	七、〇六四	一、三三〇
イナダ		七六、七五〇	二〇、八九九	一、一〇一	一、二五〇
鯔		七三、六〇〇	二一、九六八	四、二六七	一、一六五
ギンポ		七七、一八五	一八、二五九	三、〇五六	一、五〇〇
牛尾魚		七八、八八五	一九、六五七	〇、三三六	一、一三三
アナゴ		八一、五一〇	一六、七三〇	〇、五九五	一、一六五
海鰻		八〇、〇七五	一七、一四三	一、五七五	一、〇二五
河豚		七九、七七五	一八、七四一	〇、二五九	一、二三五
黄貂魚		七七、二三五	二一、四五三	〇、二九七	一、〇二五
田螺		七五、七六六	一九、一〇三	〇、五四七	四、五八五
西施舌		七九、二三〇	一六、六九〇	二、六二五	一、四五五
貝ノ柱		八〇、三七〇	一八、〇九〇	〇、二二〇	一、三二〇
糠鰕		七七、六八〇	一六、二七八	三、二五七	二、七八七
青花魚	醃藏	七五、〇〇〇	一六、一〇〇	二、八七〇	六、〇三〇
文鰩魚	仝	六六、三三五	二三、四六六	〇、五三九	九、六六〇
魚鹹	仝	五六、七五〇	二八、七〇九	六、五九一	七、九五〇
鯑	仝	四八、二五〇	三四、一四〇	三、九八五	一五、六二五
鰛魚		六三、六五〇	三二、四四六	五、六七九	八、二二五
田作		三、六八四	六九、二五一	二、七五六	五、三〇九
鰕魚尾	佃煮	三六、七五〇	三八、八二〇	三、七三〇	二〇、七〇〇
海鼠腸		七二、四九〇	八、八三六	二、六八七	一五、九八七
ハンペン		七七、一六〇	六、六一六	〇、三三〇 (無窒素物 一三、七四九)	二、一二五

第二　植物性營養品　百分中の成分を示す

品名	水分	含窒素物	脂肪	無窒越幾斯物	木繊維	灰分
鶉豆	一四、五七〇	一八、九〇〇	一、一六〇	五七、七五〇	六、四六〇	一、一六〇

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

燕麥(カラスムギ)	一〇、四〇四	三、五三七	四、一八〇	六六、九一九	四、一六〇	一、八〇〇
蜀黍(モロコシ)	三、一〇〇	一〇、五〇〇	三、六二〇	六六、三九〇	六、二八〇	〇、一一〇
玉蜀黍(トウモロコシ)	一五、〇五〇	九、四五〇	三、五二四	六六、六五六	三、〇八〇	二、二四〇
薏苡(ハウレンサウ)	三、七四〇	一三、六五〇	五、三八〇	六四、九四〇	三、一七〇	〇、一二〇
麻實(アサノミ)	九、九八六	二一、一七五	二四、五六〇	一三、九〇六	二九、三三八	二、〇四五
菊花	八六、六四五	一、九二六	〇、〇三七	八、七九九	二、五四二	〇、〇五二
紫蘇巻唐辛(シソマキ)	六四、〇九〇	二、八八七	〇、九七一	六、六三七	三、四三〇	二一、九八五
酢漬蕗(スヅケラツキヤウ)	八五、九〇〇	〇、九三七	〇、〇七六	七、八五六	〇、三三五	四、九〇四
塩漬生姜(シホヅケシヤウガ)	七五、三二五	〇、七八七	〇、三一九	一三、五八〇	二、〇八九	八、〇〇〇
塩漬李(シホヅケスモヽ)	八〇、八三五	〇、〇五七	〇、〇六三	五、七九五	二、五一五	一〇、七三五
塩漬梅(シホヅケウメ)	七〇、七三五	〇、〇七九	〇、一八三	八、九四八	一、六一五	一八、四五〇
粕漬白瓜(カスヅケシロウリ)	七二、二一〇	二、六五〇	〇、〇四三	一八、七九六	〇、七〇九	五、五九一
味噌漬大根(ミソヅケダイコン)	六二、〇三〇	六、一四〇	〇、一九〇	一六、五二〇	二、二三〇	一三、九〇〇
醴(軟煉)(アマザケ)	六三、〇七〇	三、五〇〇	—	三三、三九二	〇、七五三	〇、二六五
生揚(ナマアゲ)	七八、六六〇	一〇、二八〇	八、二〇〇	二、〇三〇	—	〇、八三〇
貫錢麩(カンセイフ)	一二、五九〇	二五、八八〇	一、五一〇	五八、五二〇	—	一、五一〇
昆布巻(コブマキ)	六七、五二〇	二、六六七	〇、一八	二四、九二〇		四、七二〇

NOTICE

●地方の方に告ぐ

會費御未納の方は至急事務所へ御送附下され度爲替は總べて下谷郵便局宛に願上候

私立大日本婦人衛生會事務所
東京下谷區練塀町四十三番地

本會雜誌 編纂委員 太田ひく子 鈴木まさ子

發行所 東京下谷區練塀町四十三番地 私立大日本婦人衛生會

編輯兼發行人 東京麹町區三番町六十七番地 巖本善治

印刷人 東京麹町區上二番町十八番地 八木吉六